

健康の維持・増進と指標 健診で生活習慣の改善を



問診と理学的検査

この検査で何がわかるか?

問診は受診者の健康の歴史を明らかにして、そこから現在どのような健康状態にあるかを判断するために大切です。なかにはプライバシーにかかるような内容の質問もありますが、正確な判断のために大変重要なことですので正面に答えましょう。個人のプライバシーは厳密に守られるので安心してください。診療では医師が直接からだを見たり触れたりしながら健康状態を診断します。



身体計測

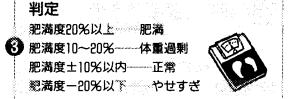
この検査で何がわかるか?

身長と体重を測って肥満度を出し、やせすぎ、太りすぎをみます。肥満は成人病の温床であり、現在とくに症状がなかったり他の検査データに異常がみられない場合でも、なるべく標準体重に近づけるよう努力する必要があります。一方やせすぎている場合、とくに短期間のうちに体重が減ったときは、がんや糖尿病などの病気がかかれていますことがあります。



肥満度判定方法

標準体重を出す (身長(cm) - 100) × 0.9 = 標準体重(kg)
肥満度を出す ② あなたの体重 - 標準体重 × 100 = 肥満度(%) 標準体重
①

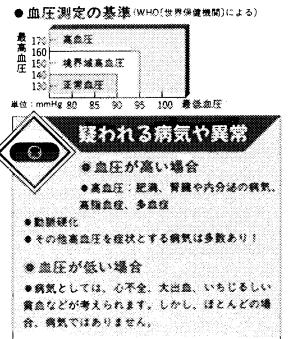


血圧測定

正常値>最高血圧 139mmHg 以下
(基準) 最低血圧 85mmHg 以下

この検査で何がわかるか?

心臓はからだ中に血液を送り出すポンプです。この血液を送り出すときに血管の中に加わる圧力を血圧といいます。そして、心臓がギュッと縮んで血液を押し出すときの圧力を最高血圧、心臓が元へ戻ったときの圧力を最低血圧といいます。また、最高血圧と最低血圧の差を脈圧といい、この差が小さくなったり大きくなったりすることも問題なので注意してください。



疑われる病気や異常

- 血圧が高い場合
 - 高血圧：肥満、腎臓や内分沁の病気、高脂血症、多発症
- 動脈硬化
- その他の高血圧を症状とする病気は多数あります！
- 血圧が低い場合
 - 血氣としては、心不全、大出血、いちじるしい貧血などが考えられます。しかし、ほとんどの場合、血氣ではありません。



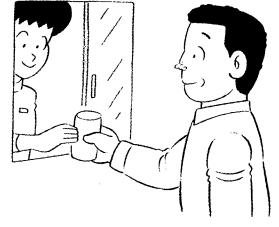
尿・便検査

1 尿糖

正常値>陰性 (-)

この検査で何がわかるか?

糖尿病発見の手がかりになります。糖尿病で血糖値が高く（180-180以上）になると、尿にたくさん糖が出来るようになります。ただし、食後や激しい運動、ストレス、腎の手術をした場合に尿糖が出ることがありますが一時的なものです。また、腎性糖尿といって尿糖は陽性で、血糖値は正常な場合があります。



結果の読み方

尿たん白、尿沈渣、ウロビリノーゲンも同様

- (-) 糖が出ていない
- (+) 糖が出ていている
- (±) やや出している
- (++) たくさん出している

疑われる病気や異常

- 陽性 (+) ~ (++) の場合
 - 糖尿病
 - 腎炎
 - 肝臓の病気
 - 甲状腺の病気
 - 糜液
- 腎腎皮質ホルモン剤（ステロイド剤）を長期に服用しているとき



2 尿たん白

正常値(基準値)>陰性 (-) 5~10mg/dl

この検査で何がわかるか?

腎臓の病気をみつける手がかりになります。検査方法は2種類あつて、一つは尿中にたん白が出ているかどうかを調べる定性検査（-、+で表示）。

もう一つはたん白がどのくらい出ているかを調べる定量検査で、これは定性検査で陽性（+）に出たときに行なわれます。ただし、激しい運動、ストレス、たん白質の多い食事をしたあと、熱い風呂、女性では月経の前に出ることがあります。

疑われる病気や異常

- 陽性 (+) ~ (++) の場合
 - 急性・慢性腎炎
 - 胃炎
 - ネフローゼ症候群
 - 腎管・膀胱・尿道の炎症や結石・腫瘍
 - 妊娠中毒症（妊娠中に尿たん白が多量に出て、むくみがひどく血圧が高いとき）



3 尿沈渣

正常値>沈渣物中に何もないか、赤血球、白血球が少数

この検査で何がわかるか?

尿たん白や尿糖などの尿検査で腎臓や尿管の病気が疑われるとき、さらに詳しく調べるために行われます。とくに尿たん白が陽性の場合には必ず行われます。腎臓や尿管、膀胱の病気だけでなく、白血病、紫斑病のような全身の病気の診断にも大きな手がかりになります。



疑われる病気や異常

- 赤血球が増えた場合
 - 腎臓や尿管の炎症：腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、膀胱炎、前立腺炎、急性腎炎
 - 腎臓や尿管の結石・腫瘍
 - 全身疾患の出血傾向：白血病、紫斑病、血友病
- 白血球が増えた場合
 - 腎臓や尿管の炎症
 - 白血病

